Vol. 74

マイセルフ

特集
P1▶P2 理工系分野を支える女性の力

P3▶P4 函館市ジェンダーギャップ解消プロジェクト
選ばれる職場づくりセミナー要旨

P5▶P6 函館市女性センターからのお知らせ
はこだて男女共同参画フォーラム 2025

back cover 相談窓口／ Hakodate かがやきネット

函館市男女共同参画情報誌／ 2025.9

特集 理工系分野を支える女性の力

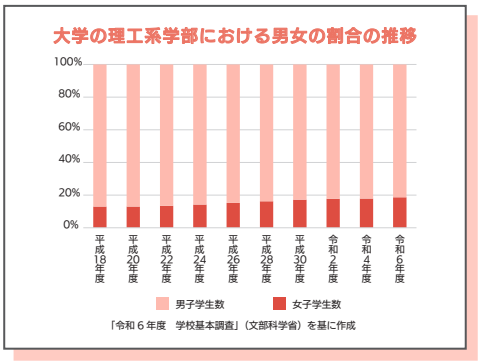
日本において理工系分野で活躍する女性は、まだまだ少数派です。
その背景には、「理工系は男性の分野」という無意識の思い込みが、進路選択に影響を与えている可能性もあります。
しかし今、社会の変化とともに、国が女子学生を対象にした理工系分野への進学を促進する取り組みを行うなど、女性が理工系分野で力を発揮できる環境づくりが進んでいます。
本特集では、理工系分野における女性参画の意義と可能性について考えるとともに、理工系分野に進学した女子学生の素直な声をご紹介します。

日本における理工系分野で活躍する女性の少なさ

OECD（経済協力開発機構）による生徒の学習到達度調査によると、日本は主要な 10 か国の中でも、男女ともに 15 歳時点の数学・科学の成績が非常に高く、世界トップレベルに位置しています。特に女子生徒も、数学や科学の分野で高い学力を示しており、男女間に大きな差は認められません。

それにもかかわらず、令和 6 年度の日本の大学では、理学系学部の女子学生の割合は約 28%、工学系では約 17%にとどまっており、OECD 諸国の中でも理工系分野への女子の進学率は最も低い水準です。

このギャップの背景には、「女性は数学が苦手」といった根強いジェンダーバイアスや、理工系分野に対する社会的なイメージが進路選択に影響を与えている可能性があります。



理工系分野では多様な視点が求められており、女性の参画は新たな技術や制度の創出につながります。だからこそ、より多くの女性が理工系分野に関心を持ち安心して進学できる環境づくりを、社会全体でさらに推進していく必要があるでしょう。

女性が理工系分野に参画することの意義

女性が理工系分野に参画することで、多様な視点が活かされた研究や開発が進み、より多くの人々のニーズに応える製品やサービスが生まれています。

例えば、ある大学の女性研究者は、初めての出産を経験した際に、家事・育児・仕事の両立の難しさを実感したことをきっかけに、遠隔で育児を支援できるロボットの開発に取り組みました。また、複数の企業が、月経や更年期など女性特有の健康課題に寄り添うフェムテック製品の開発を進めており、体調管理を支援するアプリや、自宅で使える検査キットなどが登場しています。

こうした成果は、科学技術の進化だけでなく、次世代の研究者のロールモデルの育成にもつながり、女性の理工系分野への参画がさらに広がることが期待されます。

理工系分野におけるワークライフバランスの可能性

近年、理工系分野における女性のキャリア形成において、柔軟な働き方や専門性を活かした選択肢が広がっています。テレワークやフレックスタイム制度の導入により、研究や技術職でも時間や場所にとらわれない働き方が可能となり、個々のライフスタイルに合わせたキャリア設計がしやすくなっています。

また、家庭と仕事の両立を支援する制度や職場環境の整備も進んでおり、育児や介護といったライフイベントを経ても、専門性を活かして働き続けることができるようになってきました。特に理工系分野では、専門知識や技術が評価される場面が多く、長期的なキャリア形成が可能です。

こうした環境の変化により、女性が理系分野で長く働き続けられる社会が少しずつ整いつつあります。これからの時代、性別に関係なく、誰もが自分らしく専門性を発揮できる理系の職場づくりがますます重要になっていくでしょう。

理工チャレンジ（リコチャレ）

女子中高生・女子学生の皆さんが、理工系分野に興味・関心を持ち、将来の自分をしっかりイメージして進路選択（チャレンジ）することを応援するため、内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取り組みです。理工系分野が充実している大学や企業など『リコチャレ応援団体』の紹介や、団体が実施するイベント情報の提供、理工系分野で活躍する女性からのメッセージ紹介などを行っています。

リコチャレ

https://www.gender.go.jp/c-challenge/index.html

出典：「男女共同参画白書　令和６年度版」（内閣府）、「令和６年度　学校基本調査」（文部科学省）、「令和５年度　理工系分野進学後の女性のキャリアパスに関する事例についての調査研究」（内閣府）、「日本に数学や物理学を学ぶ女性が少ないのはなぜ？ - POLICY DOOR ～研究と政策と社会をつなぐメディア～（https://www.jst.go.jp/ristex/stipolicy/policy-door/article-08.html）」（横山広美）、「研究者の育児経験から生まれたロボット子育てを遠隔で支援する | 共創たまちいき（https://tamachiiki.jp/article/detail/19）」（多摩信用金庫）

Interview

「好き」を究める、私たちの選択。函館高専「理工系女子」のリアル

理工系に進むのは、得意だから？目標があるから？――そう思っている人にこそ届けたい、女子学生たちのリアルな声をご紹介します。「ちょっと気になる」「やってみたい」という気持ちを大切に、理工系の世界へと踏み出した彼女たちの姿から、進路選びに必要なのは、自分の気持ちに正直でいることだと気づかされました。

理系女子実験隊

2015 年に活動を開始し、今年で 10 周年を迎える。
現在は、女子学生支援室長の松永智子先生の指導のもと、小中学生に理科や科学の面白さを伝える出前講座を中心に、約 26 名の学生が活動。
2020 年に日産財団の第 3 回リカジョ育成賞グランプリを受賞。
今回は、そんな理系女子実験隊のメンバー７名にお話を伺いました！

ご協力いただいた理系女子実験隊の皆さん
岩館さん（4 年）／楢山さん（4 年）／富所さん（4 年）／黒谷さん（2 年）
森さん（4 年）／石岡さん（4 年）／太田さん（2 年）

“好き”から始まる、理工系の道

高専に進学した理由を聞いてみると、「小学生の頃はゲームクリエイターになりたかったんです」（森さん）、「建築を見るのが昔から好きで」（太田さん）と、自分の“好き”をきっかけに理工系の道を選んだ人もいれば、「兄や姉が楽しそうに通っているのを見て」（黒谷さん）と、家族の影響で進学を決めた人もいました。

中には、「中学のときは数学が苦手で、社会の方が得意でした」（森さん）、「文系科目のほうが得意だったんです」（岩館さん）と話す学生もおり、最初から理工系が得意な人ばかりではないようです。

「高専のガールズオープンキャンパスで実験をしている女性の先輩を見て、憧れたから」（楢山さん）と話す学生も。得意かどうかよりも、「ちょっと気になる」「やってみたい」という気持ちを大事にして、理工系への扉を叩いたようです。

好奇心が動かす、学びの日々

今取り組んでいる授業や活動でどんなことが面白いか聞いてみると、理工系の世界の奥深さが少しずつ見えてきました。

「薬品を混ぜることで性質が大きく変わるコンクリートの実験」（太田さん）や、「身近なプラスチックの奥深さを知ることができる授業」（黒谷さん）など、様々なことに興味を持って取り組んでいる様子が伝わってきます。

また、高専での学びは教室の中だけにとどまりません。「理系女子実験隊」では、子どもたちに科学の楽しさを伝えるイベントを行っており、仲間と協力して成功させる達成感が、大きな自信につながっているようです。

さらに、海外の学生と専攻外の分野を学ぶグローバルキャンプや、函館市の花を使って紙を作る取り組みなど、専門分野の枠を超えた活動にも積極的に取り組んでいて、理工系の知識を軸に様々な挑戦を楽しんでいる様子が伝わってきました。

“やってみたい”が、未来をつくる

高専での学びを通じて、学生たちはそれぞれの「やってみたいこと」に向かって進んでいます。

「小学生の頃はゲームクリエイターになりたかったけれど、今はシステムエンジニアになりたい」（森さん）、「高専で学んだことを活かせる研究職に就きたい」（石岡さん）、「微生物や発酵に興味があるので、お酒にかかわる仕事に就きたい」（岩館さん）など、専門分野を活かした進路を目指す人もいれば、「生徒たちに多様な選択肢の存在を伝えられる教員になりたい」と話す富所さんのように、教育の道を志す人もいます。

楢山さんの「専門技術を一般の方に分かりやすく伝える『技術営業』の仕事に就きたい」という言葉も印象的でした。理工系の知識は、ものづくりだけでなく、人と技術をつなぐ力にもなるのだと気づかされました。

毎日の学びが、進路の可能性を広げるきっかけになっているようです。

可能性を、自分で決めつけないで

最後に、これから進路を考える中高生へ、温かいメッセージをいただきました。

「具体的な目標がなくても、少しでも興味があれば、その気持ちを大切にしてほしい」（黒谷さん）。「理科が苦手だからと、理工系全体を諦めないでほしい。きっと好きな分野が見つかるはずです」（富所さん）。「私は、建築が好きという理由で理系を選んだので、皆さんにも理工系が苦手だからとあきらめないでほしい」（太田さん）。

学生の皆さんが口を揃えて語るのは、「先入観や苦手意識で、自分の可能性を決めつけないでほしい」という願いです。「理工系は男性のものというイメージがあるかもしれませんが、実際は女子学生も年々増えています。まずはオープンキャンパスなどで、実際の雰囲気に触れてみてください」と楢山さんは話します。

大切なのは、自分の“好き”や“やってみたい”という気持ちに正直でいること。理工系かどうかに関係なく、自分らしい選択ができるように、まずは一歩踏み出してみてはいかがでしょうか？

函館工業高等専門学校　理系女子実験隊の皆さん、ご協力ありがとうございました！

函館市ジェンダーギャップ解消プロジェクト　キックオフイベント

選ばれる職場づくりセミナー
～若者・女性に選ばれ、持続的成長を～

令和７年７月７日（月）、函館市ジェンダーギャップ解消プロジェクトのキックオフイベントとして、本セミナーが開催されました。

函館市内の経営者や人事担当者、従業員などに向けて、若い人や女性に「働きたい」と思ってもらえる職場づくりのポイントや地域の活力につながるヒントなどを、函館市ジェンダー平等推進アドバイザーの塚原月子氏にお話しいただきました。ここでは、セミナー内容の一部をご紹介します。

仕事に対する意識の変化と地方都市の人口流出課題

現代の仕事に対する価値観は、世代間で異なっています。とある調査（※）によると、「生活のため」という仕事に見合った給料が支払われることは、どの年代でも変わらず重視されています。ただ、その次に重視するポイントには違いがあります。

20 代の方は他の年代に比べて、「スキルアップのため」「人や社会の役に立つため」「人として成長するため」といった点を重視していて、こうしたことが実現できる職場を「いい職場」だと感じやすいようです。

また、20 代は「仕事に一生懸命取り組みたい」と思うと回答した割合が高い一方で、「プライベートを重視したい」という回答も同じように高いというデータがあります。上の世代からすると、「仕事を頑張りたいし、プライベートも大事にしたい」というのは矛盾しているように感じるかもしれませんが、今の若い人たちはその両方の良いバランスを求めているのだと思います。

ジェンダー平等に関連して、男女の役割分担に関する意識についても見ていきます。内閣府の調査によると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、賛成する割合はどの年代でも女性の方が少ないことが分かっています。今ももちろんそのような考え方の人はいますが、少しずつ「そうでもない」と考える人が増えてきているようです。とはいえ、どの年代でも現在の男女の役割分担のあり方に賛成する割合は、女性の方が少なめです。特に子育て世代が多いと思われる 30 代では、他の年代に比べて男女の意識に大きな差が見られます。

こうした男女の役割分担に対する意識の差が、地方の若者の転出につながっているのかもしれません。

今年の男女共同参画白書では、「男女共同参画の視点から見た魅力ある地域づくり」というテーマで、地方に焦点が当てられています。地方から大都市圏に転出する理由についての分析も掲載されていました。

18 ～ 39 歳の男女に調査した結果を見ると、「地元から離れたかったから」という消極的な理由で地元を離れた女性は、そうでない女性や男性よりも、固定的な性別役割分担意識があると感じていたと回答する割合が高い傾向にあります。たとえば、「家事・育児・介護は女性の仕事」「食事の準備やお茶出しは女性の仕事」と固定化されてしまっていると感じている人が多いようです。

国勢調査などの統計データを見ても、函館市において、特に 20 代前半の女性の転出超過割合が全国平均を上回っていることが分かりました。原因ははっきりしていませんが、こうした固定的な性別役割分担意識が、「地元を離れたい」と思う一因になっているのかもしれません。

自分と異なる人を理解することは難しい

育児中の女性社員に「今は負荷の高い仕事は無理だよね」と思ったり、家庭の事情で休もうとする男性社員に「奥さんに任せられないの？」と聞いてしまったり、こんな感覚や状況に接したことはないでしょうか。こうした感覚を持つ方を責めているわけではありません。

※…「仕事価値観及びキャリア満足度に関する年代別調査」
一般財団法人エン人材教育財団（調査期間：2022 年 8 月、有効回答者数 1,500）

これは共感力が足りない、または思いやりがないのではなく、人間の脳の自然な働きで起こります。無意識の偏見（バイアス）というもので、親近感のある人を好ましく感じたり、最初の印象に合う情報ばかり集めたり、周囲の意見に同調したり、権威ある人の言葉を鵜呑みにしたり、見た目で判断してしまったり。こうしたバイアスが、知らず知らずのうちに私たちの判断に影響を与えているのです。

とはいえ、特にジェンダーに関するバイアスは良くない影響が出てくることもあります。同じスキルでも女性には小さな仕事しか任されないことがあったり、女性自身も「私なんかが…」と自信を持てなかったりします。一方で男性も「弱音を吐けない」「期待通りに振る舞わなきゃ」と思い込んでしまい、心の負担を抱えてしまうこともあります。

自分の今までの基準では、「これは良かった」「こうするのが正しい」と思っていたとしても、そうした物差しで異なる考え方を持つ相手に接してしまうことで、結果的に相手に嫌な思いをさせてしまうことがあると思います。

経営者・管理職としてできること

経営者や管理職の方はもちろん、職場の一人ひとりが働きやすい職場づくりのためにできることは、大きく 3 つあります。それは「言動を変える」「仕組みを整える」、そして「風土を変える」ということです。これは経営層だけの責任ではなく、入ったばかりの人も含めて、みんなが担う役割だと思っています。

1 つ目は、一人ひとりの「言動」です。ここでは育成、責任、勇気、謙虚、寛容という 5 つの心構えが大事になってきます。自分の常識を押し付けず、多様な人材が尊重されている状態を実現して、部下の成長を後押しする「育成」。健康に仕事ができる環境を整え、多様な社員の課題にも寄り添ってあげる「責任」。前例にとらわれず創造力を働かせて新しい行動を取ってみたり、それを応援したりする「勇気」。自分の経験に固執せず、新しい世代や異なる視点から学ぶ「謙虚」。そして、失敗を減点するのではなくて、そこから何を学ぶかを大事にする「寛容」。

多様性や男女というところに限定することではありませんが、教育の段階でこのようなことを思い出してもらえると良いと思います。

2 つ目は、会社や組織としての「仕組み」を整えることです。これは少し時間がかかる話かもしれませんが、大事なのは「なぜ変えるのか」という明確な目的を持つことです。「このままだと 5 年後まずいぞ」といった危機感が、変革のエネルギーになります。例えば香川県の石丸製麺所さん。いい社員さんが介護等で辞めていくことに社長が「慚愧（ざんき）に堪えない」と強い問題意識を持ち、「全従業員がやりがいを持って働ける会社」を一番の目標に掲げました。休暇を取りやすくするために業務効率化や設備投資を進めた結果、離職率が低下し、それが会社の強みになり、今では海外展開という次のステップに進むといった、すごくいいサイクルが生まれているという事例です。

ただ、仕組みだけだとやはりギスギスしてしまいます。そこで最後に大事なのが 3 つ目の「風土」を変えることです。これもまた一人ひとりの心がけ次第で、例えば会議で発言しづらい人に話を振ってあげる、いつも同じエースに任せるのではなくて、「この人にチャンスをあげたら化けるんじゃないか」という目で人を選んでみる、といったことですね。時短で帰る人を「熱意がない」じゃなくて、「短い時間で頑張ってる人」というように見てあげる等、多様な働き方へのリスペクトも大事になってくるかなと思います。

ただ、これらはあくまで例なので、一番いいのは、皆さんの会社で「自分たちにとって良い職場ってどんなだろう？」と話し合って、オリジナルの約束事を決めていくことなのではないかと思います。

最後に

職場でのジェンダー平等というと、経済活動よりも優先順位が劣るような気がしてしまうかもしれません。

しかし個人的に、職場でのジェンダー平等の取り組みは、今まで十分稼げていなかった人がお金を持ち、地元で経済を回していくということだと思っています。ですから、かなり経済対策に近いところにあるのではないでしょうか。

ぜひ優先順位を高く据えて取り組んでいただけたらと思います。

講師プロフィール

㈱カレイディスト 代表取締役兼 CEO
G20 EMPOWER 日本民間共同代表
函館市政策アドバイザー

塚原（つかはら） 月子（つきこ）氏

ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョンの領域で様々な企業・機関にアドバイザリーを行うカレイディストの代表取締役兼 CEO を務める。2019 年 G20 の公式エンゲージメントグループである W20 の日本運営委員会事務局長を務めたのち、2020 年より G20 の信任のもと新たに立ち上げられた EMPOWER（ビジネスにおける意思決定層への女性参画を推進するための G20民間セクターアライアンス、日本は副議長国）の日本民間共同代表を務める。 自身も 3 児をもつ母親として、育児と仕事の両立を図るべく、働き方改革を実践中。

函館市女性センターからのお知らせ

令和７年度後期（10～３月）開催予定の講座から、いくつかご紹介します。

男だらけの台所

MEN's キッチン

初心者の男性でも簡単に出来て、実用的な家庭料理を学びましょう！

令和７年

11月15日（土）

午前11時～午後１時

定　　員：12名
材 料 費：1,500円
申込開始：10月17日(金) 午前10時より

自宅でできる

はじめてのボディクリーニング

肩こりや腰痛を改善するボディクリーニングを学び、健康な身体作りに役立てましょう！

令和７年

12月19日（金）

午後６時30分～午後７時30分

定　　員：14名
参 加 料：無料
申込開始：11月20日(木) 午前10時より

冬休み・親子でチャレンジ

アロマ&ジェルキャンドルを作ろう

アロマやジェルを使ったオリジナルのキャンドルを、親子で楽しく作りましょう！

令和８年

1月6日（火）

午後１時30分～午後３時30分

定　　員：親子６組12名
材 料 費：1組1,000円
申込開始：12月９日(火) 午前10時より

アニメから考える

多様性ってなんだろう？

アニメや漫画作品のキャラクターから、多様性やジェンダーについて学びましょう！

令和８年

2月6・13日（金） 連続２回

午後６時30分～午後８時

定　　員：36名
参 加 料：無料
申込開始：1月９日(金) 午前10時より

函館市女性センター

月～土曜日（祝日・年末年始を除く）
午前９時～午後９時
函館市東川町11番12号

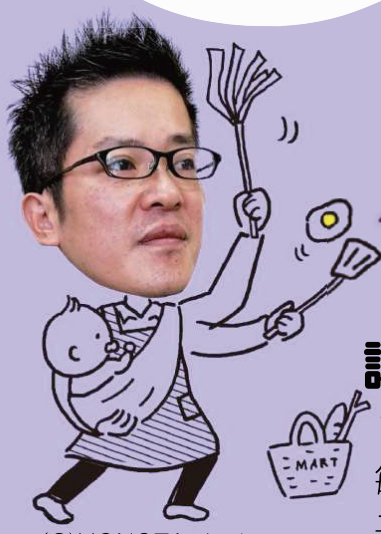
0138-23-4188
info@hakodate-josen.com
https://www.hakodate-josen.com/

はこだて男女共同参画フォーラム２０２５

笑って考えよう！

家庭のこと・仕事のこと・未来のこと
～男性の家事が社会を救う～

赤ちゃん・お子さんも会場内で
一緒にご参加いただけます！
（事前申込制の託児室もあります）



(C)HONOTA design

～TV「世界一受けたい授業」で
東大人気講義No.1に選ばれた講師～

講師：瀬地山（せちやま） 角（かく）さん(東京大学大学院教授)

10年間2人の子供の保育園の送迎を一手に担い、
毎日の夕食作りを担当してきたジェンダー論の研究者。
子連れで渡米し、父子家庭も経験した。

日時 2025年 **10月26日** 日 **14:00-15:30（13:30開場）**

会場 **函館市民会館　大会議室**
（函館市湯川町１－３２－１）
定員：３００名
（定員になり次第受付終了）

参加料無料

お申込みはお電話もしくは申込フォームから
☎0138-21-3470（受付：平日 8:45～17:30）

申込フォーム

※手話通訳・託児希望の方は10月14日(火)までにお申し込みください。
※オンラインライブ配信、アーカイブ配信も行います。（要申し込み）

主催：はこだて男女共同参画フォーラム実行委員会

函館家庭生活カウンセラークラブ，函館市町会連合会女性部，一般財団法人函館YWCA，国際ソロプチミスト函館，函館市社会学級生連絡協議会，函館認知症の人を支える会，公益社団法人北海道看護協会道南支部，函館市学童保育連絡協議会，函館商工会議所女性会，一般社団法人函館青年会議所，公益社団法人函館法人会青年部会，一般社団法人北海道中小企業家同友会函館支部女性部「マルメロの会」，函館市亀田商工会女性部，函館東商工会女性部，にっぽん生活文化楽会，函館市各種団体連絡協議会，函館市女性会議，函館市

後援

北海道新聞函館支社，函館新聞社，NHK函館放送局，STV函館放送局，HBC函館放送局，FMいるか，NCV函館センター，北海道渡島総合振興局

お問い合わせ　事務局：函館市市民部市民・男女共同参画課
TEL:0138-21-3470　E-mail:danjokyodo@city.hakodate.hokkaido.jp

相談窓口

配偶者からの暴力、家庭生活、困りごと、悩みごとなど、お気軽にご相談ください。

函館市女性センター
●DV・虐待・離婚相談●働く女性の悩み相談
火・木曜日　10 時～ 15 時
水・金曜日　18 時 30 分～ 20 時 30 分
Tel.84-8742
●セクシャルマイノリティ相談
水曜日　13 時～ 17 時
Tel.23-4188

ウィメンズネット函館
月～金曜日　10 時～ 17 時
Tel.33-2110

女性相談室
（函館市配偶者暴力相談支援センター）
〔市役所本庁舎２階〕　Tel.21-3010
〔亀　田　支　所〕　Tel.86-7100
月～金曜日　8 時 45 分～ 17 時 30 分

函館・道南 SART
●性暴力被害者相談　Tel.85-8825
月～金曜日　10 時～ 17 時

配偶者暴力相談支援センター
〔渡島総合振興局環境生活課〕
月～金曜日　9 時～ 17 時　Tel.47-5789

家庭生活相談（電話および面談）
〔函館家庭生活カウンセラークラブ〕
●女性センター　Tel.84-8742
月・金曜日　10 時～ 12 時・13 ～ 15 時
水曜日　10 時～ 12 時
木曜日　18 時 30 分～20 時 30 分
●湯川支所　Tel.57-6161
火曜日　10 時～ 12 時
●亀田支所　Tel.45-5581
木曜日　13 時～ 15 時

マザーズ・サポート・ステーション
●妊娠　●出産　●子育て
〔函館市子ども未来部母子保健課〕
Tel.32-1565
月～金曜日　8 時 45 分～ 17 時 30 分

ひとり親家庭サポート・ステーション
●市役所本庁舎２階　Tel.21-3193
月～金曜日　8 時 45 分～ 17 時 30 分
第２木曜日　8 時 45 分～ 19 時 30 分
●亀田支所　Tel.86-7100
月～金曜日　8 時 45 分～ 17 時 30 分
第４木曜日　8 時 45 分～ 19 時 30 分
※第２・第４木曜日 17 時 30 分以降は要事前予約

道立女性相談援助センター
月～金曜日　9 時～ 17 時
Tel.011-666-9955

女性の人権ホットライン
〔函館地方法務局〕Tel.0570-070-810
月～金曜日　8 時 30 分～ 17 時 15 分

北海道警察函館方面本部
相談センター #9110 ／緊急時は 110 番へ

函館被害者相談室
水曜日　10 時～ 15 時　Tel.43-8740

毎月１回配信中！

函館市男女共同参画メールマガジン
Hakodate☆かがやきネット

配信をご希望の方は、
どうぞ、ご登録ください！

女性センターで行われている講座やイベント、職場や家庭での男女共同参画（ワーク・ライフ・バランスなど）のエッセンス、講演会や書籍の紹介、内閣府からのお知らせなど、男性と女性がともにいきいきと暮らすためのお役立ち情報を、誰もが気軽に読むことができる内容にしたものです。

★登録方法★
①函館市　ホームページ（ https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014012900355/ ）
②函館市女性センター　ホームページ（ https://www.hakodate-josen.com ）
③配信サイト「まぐまぐ！」（ https://mobile.mag2.com/mm/0000233240.html ）

こちらから
簡単アクセス！

HAKODATE　男女共同参画情報誌
マイセルフ　2025・秋　Vol.74
令和７年（2025 年）９月発行

企画・編集／函館市女性センター
発　行　／函館市市民部市民・男女共同参画課
〒040-8666　函館市東雲町４番 13 号
TEL.0138(21)3470 FAX.0138(21)3195
E-mail:danjokyodo@city.hakodate.hokkaido.jp

HAKODATE